

令和3年度 第1回 稲沢市廃棄物減量等推進審議会 議事録

日 時 令和3年7月8日(木)

午後1時53分～3時06分

場 所 環境センター2階 大会議室

出席委員 足立 三千夫、岩田 知子、内田 英伸、吉田 策男、小久保 規与子、林 茂夫、桑山 桂子、月村 正、山森 尚代

欠席委員 渡辺 和彦

事務局 岩間経済環境部長、林資源対策課長、別府主幹、大平主幹、  
加藤主査、野村主任

オブザーバー 吉川環境施設課長、糸田環境保全課長

<午後1時52分> ●開会

課長 定刻となりましたので、ただ今から令和3年度第1回稲沢市廃棄物減量等推進審議会を始めさせていただきます。

本日は、ご多忙のところ当審議会にご出席賜り、誠にありがとうございます。会議の開催に先立ちまして、この場をお借りして一言ごあいさつ申し上げます。私、この4月の人事異動によりまして、資源対策課長を拝命いたしました林昌弘と申します。環境行政関係の部署への配属は初めてとなります。何かと不慣れな点があるかと存じますが、委員の皆さまにはどうか1年間よろしく願いいたします。

それではまず審議会を始めるにあたり、本日は10名の委員のうち、9名の出席をいただいております。稲沢市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第3項の規定により、委員の過半数の出席がありますので、本会議が成立することを報告いたします。

課長 続きまして、経済環境部長の岩間福幸から、ごあいさつ申し上げます。

部長 (あいさつ)

課長 ここからの議事の進行は、稲沢市廃棄物減量等推進審議会条例第5条第3項の規定により、会長の足立様をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

会長 (あいさつ)

<午後1時59分> ●議題1「令和3年度の審議会の予定等について」

会長 それでは議題1「令和3年度の審議会の予定等について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

事務局 <説明>

会長 説明が終わりました。委員の皆さまのご意見はございませんか。

<質疑なし>

<午後2時06分> ●議題2「令和2年度のごみの概要について」

会長 次に、議題2「令和2年度のごみの概要について」に移ります。事務局から説明をお願いします。説明の際は、項目ごとに区切って説明してください。

事務局 <説明>

会長 説明が終わりました。全体を通して、委員の皆さまのご意見はございませんか。

内田委員 資料2「稲沢市のごみの概要」8ページに記載されているリサイクル資源等の処理の流れについてお尋ねします。稲沢市では剪定枝の処理に関して補助金を交付しているようですが、その剪定枝の処理の流れについてはこちらの表に記載されないのでしょうか。

部長 剪定枝の処理に係る補助金の交付事業については、あくまで通常やっていたいた処理に対して補助金を交付するというものですので、それについて表への記載はいたしません。

<午後2時17分> ●議題3「その他」

会長 次に、議題3「その他」ですが、事務局から報告はありますか。

事務局 <「フードドライブ」「事業系リサイクル資源」の2点について報告>

会長 このこと、また、全体を通して、委員の皆さまから何かご意見はございませんか。

吉田委員 フードドライブについては大切な取組みであると考えています。今後、稲沢市ではさらに本腰を入れて取組んでいくというような構想はありますか。

開催が年2回で期間も1週間程度では短いと思います。また、慈善事業に協力的な事業者が市内にたくさんありますので、タイアップ等をして一致団結してやると大きな効果があるのではないのでしょうか。

年間を通して開催するとか、集まった食品の流通の方法を構築していくと、よりごみの減量とSDGsにつながっていくかと思います。住民の側でも協力できる団体がありますが、まだ活かさきれていないのではないのでしょうか。今後考えていっていただきたいと思います。

部長 本市として本気で取組んでいこうということで考えておりますが、まず資源対策課とし

ては年間 600 万 t 以上の食品ロスを減らしていくというテーマが最初にあります。しかしながら、福祉の面が大きい活動でありますので、今時点では我々と福祉の団体との間で協力体制を築いている段階です。

今後、事業としてさらに広げていくためには場所や施設等が必要となってきます。食品の流通については、地域の助け合いという観点からも、まず市内で完結するとよいと考えています。事業者とのタイアップも可能だと考えていますが、他市の例も参考にしながらよりよいシステム構築をしてまいります。

子ども食堂の活動については様々な媒体で紹介され、認知も広がっているところであり、積極的に連携していきたいと考えています。

吉田委員 日本非常食研究機構という団体があるが稲沢市とのつながりはありますか。以前メディアで紹介されていたが、フードドライブとつながりがある全国的な組織であると耳にしております。

事務局 日本非常食研究機構という団体は存じ上げておりません。審議会の終了後、お調べさせていただきたいと思います。

先ほどもお話させていただきましたとおり、本市のフードドライブ事業は食品ロスの削減を出発点としておりますが、福祉に関わる面が大きい事業ということで、稲沢市社会福祉協議会や稲沢市連合婦人会、市内子ども食堂と協力関係を取りながら徐々に拡大させていっているところでございます。今お話のあった、関連性のある他の団体についても、今後積極的に情報収集を進めていき、必要であれば協力関係を構築していく方向で進んでいきたいと考えております。

また何か情報があれば、ご提供いただけると大変ありがたく思います。

会長 フードドライブについて、我々が特に気にしているところは廃棄物の減量の面ですが、これから多くの人や団体を巻き込んでいくということは重要だと考えます。しかしながら、今後様々な人や団体に関係してくる中で、どこがこの取組みの中心となってやっていくのか。市としてどういった方向性をお持ちですか。

事務局 本市のフードドライブ事業については我々資源対策課が主体となって取組んでいたところですが、昨年度に稲沢市社会福祉協議会から協力の申出があり、今年度の協力開催の形へとつながっています。事業の性質として福祉的な立場が必要不可欠というところがあるため、今後も 2 本柱で取組んでいくことになるというようなイメージはありますが、将来的にまた別の団体から協力等の申出があればそれは前向きに捉えていきたいと考えます。現状の形にとらわれず、より良い事業にしていければと思っております。

山森委員 リサイクル資源の出し方について、マナーが悪い方がみえます。そういった方が出された回収の対象ではないガラスのコップ等は、やはりリサイクル資源としては回収されず、

そのまま残されております。残されることについて、回収業者への指導のようなことはされているのでしょうか。

事務局 リサイクル資源に限らずというところではありますが、分別ルールに則っていないごみや資源は、今回のケースのように取残しを行っています。まずは出した方に気づいていただき、この出し方ではいけないと知っていただくことが重要であると考えております。ただし、排出者に引き上げられずに一定期間経過してしまったものについては、市の方で引き上げるという対応をとっています。

地域の方にとっては、ごみが一定期間残ってしまうということでご迷惑をお掛けしますが、分別ルールの啓発の一環としてご理解いただきたく思います。

マナーが特にひどい集積場所については、直接赴いて啓発を行っています。そういった場所についての情報があれば積極的な情報提供をお願いいたします。

内田委員 先日祖父江地区に行ったところ、カラスによる可燃ごみの散乱がないことに驚きました。集積場所が四角いかごで囲われていて、きれいな場所が多いと感じました。アパート等の集合住宅についても同様です。マナーの悪い集積場所での指導も大事だと思いますが、きれいな場所でもどのような取組みを行っているかを知り、実践していくことも大事ではないでしょうか。

事務局 カラス被害については、このところ非常に多く情報提供やご意見をいただいております。ご意見にありますように、かご状のもので囲えれば対策として間違いのないものであると思いますが、地域の実情として、かごを設置できるような場所を確保できないといったところも多々あります。現在は、カラスの特性を考慮して場所をとらなくてもできるような対策に重点をおいて啓発を進めているところです。

しかしながら、他の地域の先進的な取組みについては積極的に情報収集と共有を図っていきたいと考えます。

会長 カラス被害の話がありましたが、防護ネットの間からでも隙間さえあればごみが引っ張り出されてしまいます。かごの中にごみが収まって、くちばしが届きさえしなければ被害はないと思います。中にはかごを一から自作して地域に提供している方もみえます。

何か抜本的に被害を防げるような対策をしていただけるとありがたいです。

吉田委員 フードドライブについて、市の取組みは評価しています。

集積場所における分別ルールの指導も効果的だと思いますが、広報やパンフレットだけでは見ない人が多いことも事実です。これは提案ですが、ごみ出しに関するいろいろな苦情や不満を聴いたり、説明をしていただけるような公聴会みたいなものを各地区で年1回開くようなことはできないでしょうか。ごみ出しのルールを守らない人にかたして伝えるのが大事だと思います。電池とか小型家電等は出し方が複雑で分かりにくく、お互いの情報交換の

ようなことが有効ではないでしょうか。

ごみ出しのルールについては、各地区によって不満があったり、言い分があるようなところがあると思います。ただし、それを聴いてくれる場がなく、区長を通してということになると区長に大きな負担がかかります。住民側も協力する意思があり、行政もそれに協力するというのであれば、そういった取組みはいいかでしょうか。

もう1点、今後令和4年度のごみ処理実施計画を立てられることと思いますが、SDGsの中に資源対策課のごみ処理計画がどう当てはまってくるかという視点を持ってもらって計画の策定にあたっていただきたく思います。大きな目標としてみんなで共有できれば、今後計画を進めていきやすいのではないのでしょうか。将来的にどうしていくという、大きなビジョンのもとで計画を立てていただくとよいのではないかと思います。

部長            まず2点目のごみ処理実施計画とSDGsとの関係については、すぐに取組ませていただきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

1点目の地区別の公聴会については、市内に300以上の行政区があるため、物理的に難しいと考えます。今年度に環境委員制度が廃止され、環境委員の役割が区長の業務に統合されました。来年度、区長会の中で時間の確保ができれば、今のご意見にあるような内容を伝える場として活用できればと思いますし、SDGsや分別ルールについてもその場でお話できるかと思いますがいかがでしょうか。

吉田委員      区長会は内容が膨大であるため、追加でそういったことは難しいと思います。忙しい年度当初ではなくて、全体の中の1、2箇所でも取組みや生の声を聴いていただけたらと思います。

部長            検討させていただきます。

内容が少し戻りますが、先ほどカラス被害の話がありました。集積場所は地域で管理していただいているところですが、そこが水路や道路上だと、かごを設置するということはよしとされないことが多いと思われます。祖父江地区は合併前の旧祖父江町時代に、地主の了解を得てかごを設置することに補助金を出していたということがありますし、集合住宅については、建築に係る指導要綱があつて、何戸以上なら集積場所を作りなさいというものがあります。場所の問題さえ解決すれば設置していただきたいというような思いはあります。

現在他市の先進事例等についても、調査研究を進めていっているところですので、できれば今年度中にその成果をお知らせできればと思います。

事務局          先ほどご意見のありました公聴会の実施について、類似する取組みとして出前講座というものをしております。住民からの要望さえあれば、場所の確保や参加の声かけをしていただいた上で職員が出向き、ごみの分別やマナーについてお伝えすることができます。

既に利用いただいている地区もありますので、皆さまでもご地元で宣伝いただければと思います。我々も引き続き広報やホームページで周知を行ってまいります。

ごみ処理実施計画については、例年第3回目の審議会の中で皆さまにお示しているところですが、策定にあたってSDGsの観点が必要と考えますので、計画に取り入れつつご提示させていただきたいと思っております。

副会長 資源ごみの立ち番をやっているとマナーの悪い人をよくみかけます。マナーが浸透していけばいいと切に思います。

林委員 市としてごみの減量を目指すという部分で、現実に取り組んでいる内容が地域に浸透してきていないと感じます。SDGsについても今後市がどう進めていくのか、環境センターとしての方向性をできるだけわかりやすく、機会を作って地域の住民の皆さまにお伝えいただけたいと思います。地域のすみずみまでPRしていくというところに、より注力されるとごみの減量をもっと現実味を帯びてくるのではないかと思います。

桑山委員 地域でカラスの対策に取り組んでいますが、ルールを守ってくれない人が1人でもいると被害が出てしまいます。ごみの減量を進めていくためにも、ルールを守ってくれる人が多くなればと思います。

生ごみの水切りについても、回覧板で案内していますが、中々浸透していません。収集の方のご苦勞をお察しいたします。何度も継続していかないと改善されていかない問題だと思います。

小久保委員 昨年度は新型コロナウイルスの影響で、地元の団体による資源回収が中止となりました。年齢を重ねると資源回収の場所まで運ぶことは大変で、集団回収であればPTAの役員が家の近くまで取りに行く等の柔軟な対応ができます。今年度は何とかがんばって実施していきたいと思っております。

学校給食の牛乳容器がびんから紙パックに変わりましたが、新型コロナウイルスの影響で洗ってもらうのは危険だということになり、すべて捨てることとなりました。洗ったとしてももらってくれる業者がなかなかおらず、ごみ減量の機会が減ったと感じます。無償で引取ってくれるという業者もありましたが、それでも緊急事態宣言中はやはり受け入れてはいただけませんでした。

ごみの減量等については学校でも協力していきたいと考えています。子どもたちには積極的に環境センターの見学をさせていきたいし、見学に同伴することで教師も勉強になります。新型コロナウイルスの関係でバスが出せず、交通費負担も大きいというところもありますが、子どもたちにはごみの現状を知ってほしいという思いがあります。市と協力してやっていければと考えています。

部長 学校給食のリターナブルびんが紙パックになったことは我々としても不本意で、もう一度びんに戻していただけないかなという思いがあります。

施設見学については、施設が復旧したためいつでも受入れ可能となりました。新型コロ

ナウウイルスの影響もある状況ですが、子どもに伝える機会は重要であると考えております。

会長 私から2点あります。まずSDG sについて、非常に伝わりやすい言葉であると感じています。私の学校では創立以来ごみの減量や水の節約を進めているところですが、過去にはなかなか理解を得られないこともありました。それがSDG sという言葉で置き換わると非常に周囲に伝わりやすく、現在は生徒主導で生ごみを入れる袋を新聞紙で作る等、積極的に動き出しています。以前から3Rという言葉をよく目にしましたが、ミックスして啓発活動していただけるとよいと思います。ごみの出し方については個人によるところが大きく、小さい頃からの教育がスタート地点ではないかと考えます。そういった教育が徹底されていけば、段々と改善されていくのかなと思います。

資料2「稲沢市のごみの概要」9のページに記載のある県下各市のごみ処理量ですが、稲沢市の順位はごみ量、リサイクル率ともには真ん中あたりです。この一覧を見ると、例えば豊橋市は大きい市ですがごみの排出量が少なく、田原市はリサイクル率が高いという状況が分かります。先進的な他市の取組みについて分析を進め、我々にもフィードバックしていただきたいと思います。ここの順位を上げていくことは目標値として非常にわかりやすく、ぜひ取組んでいっていただきたいと思います。

事務局 ご審議ありがとうございました。これをもちまして本日の会議は終了させていただきます。皆さまのご協力ありがとうございました。

<午後3時06分> ●閉会